

海事教育を世界へ ～カイロ日本人学校で出前授業を実施～

当協会では、海運をはじめとする海事教育が学校授業でより多く取り上げられるよう、船舶・海事施設の見学会、出前授業や各種資料の提供など広報活動を実施しております。

この度、カイロ日本人学校の小学4年生を対象に、海運についての出前授業をオンラインで実施しましたので、その模様をお知らせいたします。同校には当協会はじめ海事諸団体等が作成した海事資料一式を送付しており、それらを活用した教育現場での授業実践に繋がっております。

<授業概要>

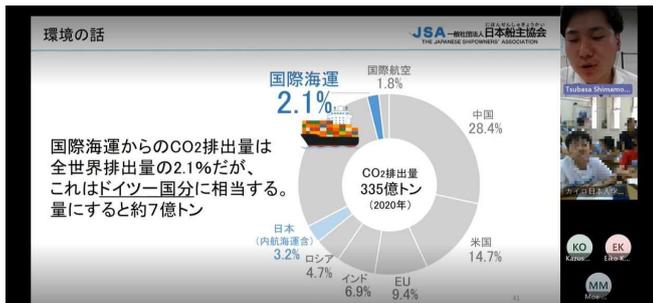
冒頭、実施に向けて日程等を調整いただいた当協会友田前副会長より、今般の出前授業の受入れに対する謝意が示された後、「出前授業を通じて、海運、エジプトを通るスエズ運河や船で働く船員等について多くの学びを得てほしい」との挨拶がありました。

続いて、当協会より海運に関する授業を実施しました。まず、海運の概要について説明したうえで、エジプトや日本において海運が日々の暮らしに重要な役割を果たしていることをクイズも交えながら紹介しました。児童は当協会が送付した資料等により事前に海運について学習していることもあり、クイズにも即答、海運に対する理解の深化が印象的でした。



次に、スエズ運河の概要について紹介し、拡張工事に関する動画も活用して、同運河が輸送貨物量の増加や船舶の大型化に合わせて対応していることを伝えました。そして、同運河がヨーロッパとアジアをつなぐ、国際貿易上の要衝であることを強調しました。

また、安全運航に関連し、ソマリア沖・アデン湾での海賊対処行動を紹介しました。安全を脅かす海賊への対策として、自衛隊員、海上保安官および各国の部隊が、現場海域で商船の護衛や哨戒活動等を行っており、これら活動が奏功し海賊事案が抑え込まれ、商船の安全確保に繋がっていることを伝えました。

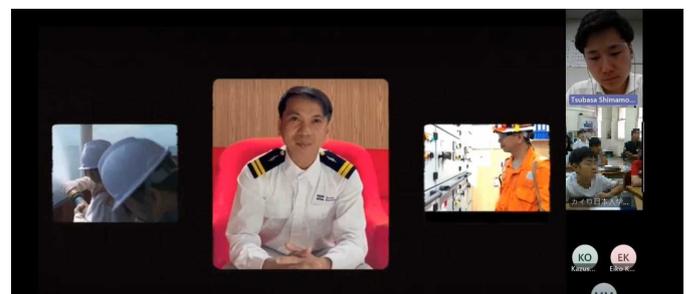


さらに、海運も SDGs 達成に向けて、より環境に優しい輸送を追求すべく、風力等を活用した GHG 排出量削減に向けた取り組みや、アンモニアや水素を燃料とする GHG を全く排出しない次世代環境船舶の開発状況について紹介しました。

この他、航海士や機関士の職務内容について紹介するとともに、船内コミュニケーションは英語であり、多国籍の船員が混乗する国際色豊かな職場環境が広がっていることを話しました。



最後に、船内での過ごし方について、コックがつくる様々な国の料理を食べられること、運動器具やゲーム等の娯楽も充実していることやインターネット環境も完備されていることなど、長期に亘る船内生活ならではの、様々な工夫がなされていることを伝えました。



質疑応答では、児童から「実際に海賊が出たことがあるのか」、「船の事故はどれくらい発生しているのか」等の多くの質問が寄せられ、友田前副会長および当協会より夫々丁寧に回答しました。

授業後、児童からは「海賊が本当に存在していることに驚いた」、「授業で初めて知ることも多くて良かった」等の感想が寄せられました。

当協会は、海運をはじめとする海事教育が学校授業でより多く取り上げられるよう、引き続き広報活動に注力してまいります。

以上